

令和元年度 大阪府立旭高等学校 第1回学校運営協議会

日時：令和元年7月2日（月）午後2時30分～午後4時30分

場所：本校会議室

出席委員：

会長	関西大学文学部 准教授	森 勇太	
副会長	大阪市立旭陽中学校 校長	辰巳 千佳子	公務により欠席
委員	大阪市立高殿小学校 校長	北浦 正美	
委員	平成28年度本校PTA 会計監査	徳島 美穂	
委員	本校PTA副会長	佐藤 章子	
委員	本校PTA会計	安藤 裕美子	

1 校長挨拶

委員への御礼

6月16日に吹田で起こった交番襲撃事件について、危機対応の大切さを再認識した。

2 自己紹介

①委員自己紹介

- 6月16日の事件当日、（委員の勤める）大学では、オープンキャンパスが予定されていたが、昨年の豪雨時の対応を教訓に、中止の判断を迅速に行うことができた。予想外の災害や事件への対応の大切さを認識した。
- （委員の勤める）小学校では、事件時は日曜日であったので、学校から情報発信をする時に少し課題があった。休日の危機管理について、さらにより良いシステムを考えたい。G20時は学童保育がなく、保護者が困ったようだ。
- 事件に関する旭高校の対応は、事件の夜には次の日の対応を警察にも相談して決められ、その内容をすぐに緊急対応メールで連絡してもらい、よかった。
- 進路の情報について、協議会を通じて知りたい。

②事務局員自己紹介

3 今年度の学校運営目標と現状報告

①校長より「平成30年度経営評価及び学校評価」について資料説明

前回協議会（平成30年度第3回）に報告したものから、若干のデータの追加

②校長より「平成31年度経営評価及び学校評価」の紹介

- 「主体的・対話的な深い学び」を目指して、1) e-ポートフォリオにつながる「旭カード」作成の取り組み、2) 現1年生より「総合的な探究の時間」の取り組み、を進めていく。
- 進路指導行事に関しては、学力診断テスト、模擬試験、進路講演会、大学見学会など、これま

での取り組みを改善しながら引き続き行っていく。

- 大学入試における英語 4 技能評価の民間試験に関して、本校に合うものとして、現時点で姿の
見えている G T E C を活用していく。また、従来の英検についても、私立大学の推薦入試等
では引き続き評価の対象になることから、今まで通り取り組みを進める。
- 海外語学研修や海外修学旅行への取り組みは、順調に進んでいる。海外修学旅行では、現地大
学生と台北市内をめぐる B S プログラムの中に本年度新たに「台湾大学見学コース」のグルー
プを編成し、新たな海外への知見を得られるようにした。
- 災害対応について、本年度新たに緊急連絡メールシステム「ライデンスクール」を P T A の協
力により導入できた。非常変災時の緊急連絡だけでなく、ふだんの学校生活を保護者に紹介す
る学年別メールマガジンにも使用でき、情報提供に役立てている。
- 情報モラル教育について、4 月に 1 年生講習会を実施。本年は、教員向け情報モラル研修を 7
月に実施し、情報モラル教育に役立てる。
- 旭区役所、旭陽中学校、高殿小学校など地域と連携した教育活動に取り組んでいく。

③ 進路指導主事より

- 本校での各学年の進路指導スケジュールについて説明
- 現 3 年生の進路希望調査と今春卒業した生徒の進路状況について資料説明
- 大学定員厳格化の影響か、4 年制大学への進学率がここ 2 年は約 3 % ずつ低下している。その
分は浪人の増加、一般専門学校への進路の増加が見られる。また、生徒の大学の延べ受験数も
増加傾向にある。一度の出願で、数種のタイプの受験ができる大学等が増加したことが背景に
ある。
- 現 3 年生でセンター試験は終了し、現 2 年生から大学入学共通テスト（新テスト）へ移行する。
情報の収集と対応にあたっている。

④ 生徒指導主事より

- 今年度は、交通ルールだけでなく、もし事故にあってしまった時、または起こしてしまった時
の処理の方法についても、指導を行っている。生徒が、事故に遭遇したとき、学校へ急ぐあま
りその場で警察へ連絡しないことがあるということが課題で、あとでトラブルに巻き込まれな
いために必ず警察へ連絡することを教えている。

⑤ 保健主事より

- 保健室来室状況は、6 月、9 月、11 月、1 月に多い傾向にあるが、毎年の傾向でもある。
- 熱中症への対応について力をいれている。各部活や授業において暑さ指数の把握と指導を行っ
ている。

⑥ 国際教養部長より

- 昨年度 3 名、本年度 2 名の留学生受け入れの状況について報告
- 本年度、語学研修についての計画について報告

⑦ 情報部長より

- メールマガジン新システム「ライデンスクール」について、各学年で登録状況の確認を行い、登録を促してもらっている。

⑧ 3 学年より

- 生徒たちは、体育祭を非常によく頑張っていた。教室内の整理整頓などでも気を使って取り組めた。
- 一部の生徒について、依然として欠席・遅刻が多いのが課題である。
- 大学入学定員の厳格化の傾向もあり、受験に対してのハングリー精神が低くなっていると感じる。「しっかりあきらめず勉強した者が、合格する」という声掛けを常におこない、受験へ向けて努力するように指導していきたい。

⑨ 2 学年より

- 初めてのクラス替えを行い、人間関係を作るのが苦手な生徒が多いと感じている。
- 大きな事案が起こるのではないが、細かい悩みをもつ生徒が多くいる。そうした様々な悩みをじっくり聞いてあげる必要があると感じている。

⑩ 1 学年より

- スマートフォン使用ルールの徹底に苦慮している。教室に持ち込み指導を受ける生徒が例年に比べ多い。
- 順調に高校生活を滑り出した印象である。4 月末の遠足も欠席者 0 であった。
- 勉強面もよく頑張っており、引き続き引っ張っていきたい。
- 登下校時の交通マナーについての指導に力をいれていく。

～休憩～

5. 協議「旭高校の魅力づくりにむけて」（司会：協議会会長 ●委員 □学校側事務局員）

- ：4 年制大学の受験者数・合格者数・進学者数について、延べ受験者数を進学希望者数で割ると、1 人当たり 6～7 回受験していることになるが、実際はどれくらいか。
- ：実際は 1～2 回の生徒もいれば 10 回以上の生徒もいる。試験を受けるのは 1 回だが、複数の方式で出願し、何度も合格判定を受けられる場合がある。この資料では、そうした出願数も数えている。広報の上手な大学やネット出願を受け付けている大学は出願しやすいため、多く出願してしまいがちだが、多く出願したからといって合格しやすくなるわけではない。
- ：同じ学部・学科でも受験方式によって難易度に差があることも考えられるが、学校では何か指導を行っているのか。
- ：個別の生徒の進路指導については担任が行っているが、出願先や受験方式について学校から指示を出すのではなく本人の希望を重視している。一般入試直前の時期でも学力が伸びる生徒は多いので、学校としては粘り強く最後まで取り組むことを重視し指導している。

●：A0 などの方式だと例年よりも出願者が多くなってしまい、例年なら合格になる生徒が合格できない場合もある。直前まで学力をつけさせるよう指導することは良い。

●：勉強時間について、スマホを使う時間や睡眠時間を勉強に向けさせているが、勉強時間を確保させるにはどうすればよいか。

□：クラブをして家に帰ると 8 時くらいになってしまう。そこから英数 1 時間ずつ予習・復習するのが理想だが現実には難しい。授業中に内容をすべて吸収してしまうのが理想。

●：大学でも、授業の前後に予習・復習があって「2 単位」である。近年はシラバスで家庭学習について指示する必要がある。高校では家庭学習をどのようにさせているのか。

□：生徒は課題が出されるとその課題にしっかり取り組むことができるが、自分で考えて取り組むことができない。その結果、課題が多く出されてしまう状況になっている。行事でも、指示があると行動することができるが、自分で考えて行動することには慣れていないように見える。

□：時間の管理については、入試が行われる時間帯に最大のパフォーマンスを発揮できなければならないので、普段からその時間帯を意識して生活リズムを整えるように指導していた。勉強時間については、暗記物は夜寝る前に覚えて翌朝にチェックし、3 週間あけてもう一度覚えているか確認する。10 個中 8 個覚えていたとしたら、覚えられなかった 2 個に目を向けてしまいがちだが、8 個覚えられたことに目を向けなければならない。

●：保健部の報告に「膝のケガが重症化しやすい」とあるが、どういうことか。

□：骨折などと違い、膝のケガの時、処置が必要なケガをしている場合でも歩けてしまうことがあり、軽く見てそのまま病院に行かずに放置した結果、重症化してしまうことがある。そのため、ひざのけがに対しては、必ず病院で診察を受けるよう注意喚起している。

●：保健室の来室状況について、2016 年度が多いのはなぜか。特定の生徒の来室が多いのか、全体的に多かったのか。

□：2016 年度になぜ多かったのかは不明。何度も来る生徒が回数を増やしてしまっている。

●：大学でも、学期初めと試験前には学生相談支援センターに来る学生が多くなる。高校では 4 月は多くないようだがなぜか。

□：年度初めの 4 月は生徒がすごくがんばる。その疲れが、連休明けの 5 月や夏休み明けの 9 月に出してしまう。

●：これは人数が多いから悪い、少ないから良いという問題でもない。必要な人が必要な支援を受けられるようにしておくことが重要である。

●：交通事故について、年間どれくらいの件数か。

□：学校が把握しているのは年間 10～15 件程度で、ほとんどが自転車の事故。今年度は幸い大きな事故はない。事故にあった場合、警察への連絡がないとひき逃げのような形になってしまう。相手が子どもであった場合や、その場ではお互いにケガがないと思っていた場合でも後から問題になることもある。

- ：交通関係の指導や、事故後の対応についての指導はどのように行っているのか。
- ：交通ルール等の指導は、保健の授業の中でも行っている。薬物防止に関する講演で警察の方に来ていただいた時に、交通事故防止関係の話もしてもらっている。事故後の対応の指導については、「学校に遅れてもいいので、警察に連絡をする義務がある」ことを、担任からも周知し学年集会でも説明した。
- ：高校生は事故にあったときに「自分が悪い」と思い込んでしまいがち。自分は悪くなくても事故が起こったら警察には連絡しなければならないことは知っておくべき。
- ：警察から交通事故を利用した詐欺についての注意喚起があった。事故現場では加害も被害もないということで警察に連絡せず別れたが、後から「スマホが割れていた」などと言いがかりをつけてくる場合があるらしい。このようなトラブルから身を守るためにも、交通事故が起こったら警察に連絡しなければならない。

- ：語学研修について、今年は新しくなることもあるようだが。
- ：生徒が良い経験をできるように、語学研修も修学旅行も、毎年少しずつ課題を検討しながら変更すべきところは変更している。イギリス語学研修も、海外から高校生が参加する英語の語学研修プログラムを比較し、他国からの研修生ともより多く交流できるなどの理由から、本年度はアイルランドでの語学研修プログラムを採用した。修学旅行での交流相手校も、その年々の状況で変更することもある。

- ：交番襲撃事件の容疑者逃亡に対する学校の対応について、保護者はどう感じたか。
- ：小中学校は休校になる可能性がニュースで伝えられていたが、それを見て旭高校はどうなるのかと話題にしていた。その後、通常通り授業を行うというメールが届いたが、警察と相談・連携した上で決めたのなら大丈夫だと思った。情報をメールで早く流してもらえたのは良かった。
- ：普段から学年のメールマガジンを配信しているのは、学校からのメールを見る習慣がつくので良い。

6. 校長謝辞

頂いた貴重なご意見を活かし、生徒の安心・安全や進路の実現を図る学校運営を行いたい。

7. 事務連絡

次回以降の開催予定日時の連絡